

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

不こ来ず方かのお城たの歌碑しろに指かを折ひるお

みそひともし

三十一文字に

おもよ

思おもひを寄よせて

奥州市 小野寺 洋一

たくぼく

啄木たくぼくの

わか ころろ す

若わかき心こころを吸すいとりし

おお そら いま

大おおきな空そらは今いまもそのまま

秋田県湯沢市 佐井 良子

あき ひ あ

秋あきの陽ひを浴あびて

まちなか は

ひっそり街中まちなかに映はゆる

たくぼくしんこん いえ

啄木たくぼく新婚しんこんの家いえ

盛岡市 河野 康夫

堂内の五百の羅漢は
どうない ごひやく らかん

時を超え
とき こ

人のところに迫り来るなり
ひと せま く

花巻市 千田 正平

もりおかのお城の池の
しろ いけ

水面には紅葉映えて
みなも こうようは

軽鴨泳ぐ
かるがもおよ

盛岡市 鈴木 充

城あとを巡りて次は
しろ めぐ つぎ

行きつけの店へと馳せし
ゆ みせ は

いい夫婦の日
ふうふ ひ

青森県青森市 鈴木 操

別辛という表記あり
べつから ひょうぎ

冷麺を
れいめん

となりのひとの真似してたのむ
まね

東京都大田区 鈴木 ベルキ

ごねん もりおか
五年ぶりの盛岡マラソン

ごじかん
五時間を

き ななじゅうだいに い
切りて七十代二位となりたり

北海道札幌市 古川 栄子

しろあと
城跡の

しゆ そ
サトウカエデが朱に染まり

いろ えら がちよう えが
色ペン選び画帳に描く

盛岡市 三澤 信裕

こずかた れきし かぜ
不来方の歴史の風を

あ
浴びながら

きみ たび あき
君とジョギングする旅の朝

青森県弘前市 井上 裕太

『もりおかの短歌』秋の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞

(応募時、中学生以下に限る)

該当なし

【講評】

選歌葉書を見ると「秋の部」は、季節のせいかな素材の広がりを感じる。秋は、詩心が生まれやすいのだろう。作歌技術にも的確さを感じた。素材を何にするかは、とても大切なことだ。短歌は素材によって決まると言っても、過言ではない。素材の発見は独自の感覚が必要である。読者が驚くほどの素材を見つけてほしい。短歌は三十一音の短い詩形であるが、とても奥深いものである。作品が作者の心いつまでも残れば、選者として嬉しく思う。

令和六年十二月選 秋の部

投稿数 九十一首

選者 赤澤 篤司